

# 神 武



三重県神道青年会報 第43号

# 会長挨拶

## 会長 遠藤嘉章



県社庁様、県内各宮司様方、先輩諸賢、会員各位の当会へのご

協力、御支援誠に感謝申し上げます。

さて、平成二十七年四月より会長を仰せつかりまして早や任期二年が経ちました。

任期一年目には、神道教化の一つとして、三重県神道青年会のフェイスブックページを五月に新規に開設し、情報を発信してまいりました。七月二十八日二十九日には、大東亜戦争終戦七十年の節目の年に、顕彰事業として、靖国神社、乃木神社、東郷神社に正式参拝を行いました。九月七日八日には、神道青年東海地区協議会教化研修会を四日市の地で、「受け継ぐ想い、未来へ」戦後七十年を迎えて」と主題にし、伊藤早苗先生と

新田均先生に講演して頂き、三重県の当番で開催致しました。三月十六日十七日には、神道青年全国協議会神宮研修会を伊勢の地で、「神代在今」神宮の尊さ、美しさを守り伝える」と主題にし、吉川竜実先生と笹岡哲也先生に講演して頂き、二日目には、六分科会に分かれて研修し、三重県が担当県で行いました。

任期二年目の七月十九日には、平成二十三年八月の台風十二号の影響による水害被害に見舞われた大馬神社へ四回目の復興支援にきました。七月二十七日二十八日には、子供達に神社について学んで、神社とふれ合ってもらおう為にお宮の子供会を開催しました。今年度は廣幡神社にて行い、四十名もの大勢の子供達に参加して頂きました。八月六日には、五年に一回伊勢の地で行う、第十二回神社スカウト全国大会の開催奉告祭を三重県神道青年会が奉仕させて頂き

ました。北陸地区と東海地区で七月四日に災害協定を締結致しましたので、両地区に復興支援活動をよくかけ、八月十八日に三重県神道青年会が主催で熊本地震被災神社である熊本県原村菅原神社において支援活動を行いました。

この他にも沢山の事業を展開し、無事終える事ができましたのも、県社庁様、県内各宮司様方、先輩諸賢、会員各位のご協力と御支援のおかげでございます。感謝申し上げます。

この二年間を通して、大きな事業を行う度に三重県神道青年会の役員は一つになっていったと感じました。一年間に神道青年東海地区協議会教化研修会と神道青年全国協議会神宮研修会が重なる年は初めてではなかったでしょうか。しかし、まず東海地区協議会教化研修会の当番県を行った事で、皆が一つになり、そこで東海地区協議会教化研修会の反省点等をいかした事により、全国協議会神宮研修会の担当県を無事に成功で終える事が出来ました。また、仲間の大切さを再認識しました。副会長をはじめ委員長、事務局長、会計理事、そして理事の皆様とは、辛い

時、苦しい時には叱咤激励し合い、嬉しい時には皆が笑顔になり、いつも一緒にその思いを分かち合い、事業に取り組んできました。そんな同志がいたからこそ、この二年間沢山の事業をやりきれたと私は痛感しております。

平成三十一年には三重県神道青年会創立七十周年の年であります。私は陰ながら応援させて頂きますので、県社庁様、県内各宮司様方、先輩諸賢、会員各位の変わらぬ当会へのご協力、御支援御願ひ申し上げます。

結びに、私は二十六歳から三重県神道青年会に入会し十四年間お世話になりました。

最初は右も左も分からない私に、県社庁様、県内各宮司様方、先輩諸賢の皆様には、数々のご指導を賜り成長させて頂きました事を心から感謝申し上げます。

そして私の任期中に一緒に頑張ってくれて、私を支えてくれた役員である同志の皆様誠に感謝を申し上げますと共に三重県神道青年会が益々発展し、会員相互の輪がより強く大きくなります事を御祈念申し上げます。

## 総務・広報委員会

総務・広報委員長 垣内 聡



三重県神道青年会の総務広報委員会委員長の任を蒙ら

ずも仰せつかり、早くも二年が経とうとしております。

思い返せば、西本副会長よりお声かけを頂き、このような形で神青活動に携わることになりましたが、これまで全く神青活動に役員として関わったことはなく、右も左も分からないような状態で不安と共に始まった二年間でした。

さて、当委員会の主な活動には、会員名簿の作成、諸会議の設営と資料作成、そして『神青通信』や『榊葉』の発行を通じた県の神道青年会の活動記録の作成とその発信を行うことでの広報活動等があります。『神青通信』、『榊葉』の編集に際しては、社務等でお忙しい中でありながら会員の皆様には原稿の作成に御協力を頂き感謝致しております。特に今期は恒例

## 渉外・福祉委員会

渉外・福祉委員長 馬場 正徳



月日が流れるのは早いもので、私が遠藤会長より渉外・福祉委員会の委員長という大役を仰せつかりまして、二年が経ちました。

この二年間を振り返ると、会長・副会長を始め、役員・会員の皆様に助けられ、委員会の方々に頼らない私を支えてもらい無事に委員長を務めさせて頂く事が出来ました。

渉外・福祉委員会の年間事業と致しまして、新職員交流会・忘年会・新年会・卒業式(隔年)・親睦行事などの企画立案をし、委員会を開き、様々な意見を出し合い、役員会に上程してまいりました。先ずは、七月開催の新職員交流会から事業が始まり、初年度はバスケットボール、次年度はバドミントンを行いました。私は富士山本宮浅間大社の助勤により残念な

から参加する事は叶いませんでしたが、吉田副委員長を始め委員の方々に助けて頂き、汗を流し新職員との交流が深められ、懇親会を含め何事もなく無事に終えたと報告を受け安堵しました。

忘年会は津市内で行われ、一年間の反省や参拝者が減っている中、これからの神社での神明奉仕や神道青年会での活動について語り合いました。

新年参拝では例年、神宮・二見興玉神社・猿田彦神社の順に参拝させて頂いておりましたが、去年より、昔からの習わしにより二見・神宮・猿田彦の順に参拝させて頂く事になりました。参拝の後、役員会を経て伊勢市内にて新年会を開き、神宮神青の方々も多く参加して頂き盛会の裡に納めることが出来ました。

一人で出来る事には限りがありますが、大勢の方々のご協力により力不足ながら二年間委員長を務めさせて頂きました事を心から厚く御礼申し上げます。

教化・研修委員会

教化・研修委員長  
三橋 航



前期に引き続き教化・研修委員会の委員長を仰せつかりました

が、皆さまに支えられてその役割を務めることが出来ました。この二年間を振り返ってみますと、今期一年目には、東海地区の当番県としての神道青年東海地区協議会総会並研修会が四日市で、また全国より青年神職をお招きしての神宮研修会が伊勢でそれぞれ開催されました。同年度に二つの研修会の運営などで大変ではありましたが、無事に研修会を終えることができ安堵感を覚えると同時に、会長を始め役員、会員の皆が一丸となって完遂したにより一層の絆が深まったと感じております。

また、今年度始めに起きた熊本地震により被災された神社の復興支援活動を行うべく熊本県神青と連絡を取り合い、原村菅原神社(熊本県菊池市御鎮座)での復興支援活動と益城町の被害状況の視察を致しました。この活動は、東海地区と北陸地区の神道青年会が災害協定を締結した経緯もあり、北陸地区にも声を掛けて両地区総勢二十一名の青年神職で行いました。まだまだ完全復興には長い年月を要する現状を目の当たりにして、東日本大震災の被災地と共に微力ながらも継続的な支援活動を行えればと思います。

教化・研修委員会の年間事業の柱の一つ「お宮の子供会」は、子供達に神社のことを身近に感じて頂く絶好の機会であり、重要な教化活動です。今期一年目は頭之宮四方神社(大紀町)にて一日間、二年目は廣幡神社(菟野町)にて一泊二日の日程でそれぞれの神社のご協力の下行うことが出来ました。神社参拝作法や施設説明、境内で遊んだり、宿泊など子供会での経験や思い出がその子供達にとって貴重な体験となり、この教化活動が、将来花を咲かせる種となってくれることを願うばかりです。



平成二十七年 定例総会

- 四月十日(月) 八日(月) 神社庁会議室に於いて会長以下役員二十四名、来賓二名の出席にて開催。
- 開会儀 礼に続き、来賓の塚原神社庁長、大仁田氏子青年協議会長よりそれぞれ祝辞を頂戴し、その後西本副会長を議長に選出、議事が進められた。
- 平成二十七年年度の会務報告・会計決算・監査報告が行われ夫々承認された。次に役員補選が行われ、新理事に芝会員、宇治土公祐高会員・波多瀬会員が会長より指名され、承認された。
- 続いて二十八年度活動方針案並びに事業計画案・予算案が各々審議されて承認を受け、定例総会は滞りなく終了した。(芦原工記 記)

会務報告

神青協

神武天皇二千六百年記念事業

国家安寧祈願祭

六月八日、檀原神宮において神道青年全国協議会が主催し、会員約百二十名が奉仕した。当会からも私と吉田理事が奉仕をした。奉仕者は前日午後、神武天皇陵・檀原神宮に参拝。その後、習礼を行い、各自の所役、全体の流れを入念に確認した。

当日は午前十時三十分より、斎主を務めた久保田宮司以下役員が内拝殿へ参進。開扉ののち会員ら百人が陪膳・膳部・手長を奉仕して神饌を奉った。続いて宮司祝詞奏上、神青協よりの幣帛並びに献酒目録の奉献があり、長友神青協会長が祭詞を奏上。その後、四人の巫女が神楽・扇舞を奉奏、全員で「君が代」「紀元奉頌の歌」を奉唱し、宮司、長友会長らが玉串を奉って拝礼した。神武天皇の崩御から二千六百年の節目の年、わが国の国体の礎を築いた神武天皇の功績を啓発すると共に、第一代である神武天皇創業の地である檀原で永久の国



(小倉孝之 記)

家安寧を祈念した。

祭典斎行後は、直会が行われ、長友会長や参列した田中恒清神社本庁総長らが挨拶に立った。このうち長友会長は、今回の祭典が二十六年前に神青協が斎行した「紀元二千六百五十年奉祝大祭」と同様天候に恵まれて無事に終えられたことを言及し、「国家安寧の祈りが届いた」と安堵した旨を述べ、奉仕した会員らには、「今後さまざまな活動に際し、今日の喜びと感動と感謝を糧にしてさらに活躍してほしい」と呼びかけた。

新職員交流会

七月十二日(火)、伊勢市内の県営総合競技場体育館に於いて開催された。会長以下二十六名(新職員十三名)が参加し、チームを編成しバドミントンを楽しんだ。どのチームもゲームの回を重ねることに白熱した試合となった。その後、神宮会館に会場を移し、会長より歓迎の挨拶、次にバドミントンの表彰式、新職員の挨拶が行われ、懇親会へと進んだ。心を一つにし、共に汗を流すことによって、同じ三重県下にいる若手の神職巫女同士交流をはかり、絆を深めるよい機会となった。



(芦原工記 記)

- 八月 第一二回神社スカウト全国大会、みそき行事助勢奉仕会長以下一〇名奉仕
- 一七〇 熊本地震復興支援活動 会長以下一二名参加
- 二九〇 神青協夏期セミナー 七名参加
- 三〇日 神道青年東海地区協議会総会並びに教化研修会 会長以下一六名参加
- 二〇日 神道青年東海地区協議会総会並びに教化研修会 会長以下一六名参加
- 二八日 第四回役員会 会長以下一八名出席
- 一〇月 東海地区 独身神職交流会「縁結会」 会長以下一一名参加
- 二六日 熱田神宮会館 会長以下一二名参加
- 二八日 神宮神青との合同研修会 会長以下一二名参加
- 二九日 神宮司庁
- 一〇月 平成二八年度神青協臨時総会 会長以下二名出席
- 二五日 忘年会 本社本庁 会長以下二二名参加
- 二八日 神宮・南部ブロック研修会 西本・小倉副会長以下二二名参加
- 二九日 伊勢河崎商人館
- 二〇日 神宮大麻頒布促進運動 会長以下二二名参加
- 六日 鈴鹿市南玉垣町

### 第三十七回お宮のこども会

七月二十七日・二十八日の二日間、三重郡菟野町鎮座の廣幡神社に於いて開催され、会長以下会員十七名が参加した。本年は小学生の参加者が三十七名と近年稀に見る大人数であり、大変賑やかな子供会となった。

一日目は、先ず正式参拝をした後、神社の説明も兼ねて境内を散策。その後夕食のカレー作りを子供達と一緒にやって行った。また夜には花火大会、会員による天照大御神様の紙芝居が行われた。

二日目は、六時に起床の後、朝の御挨拶の参拝をし、ラジオ体操、境内清掃を行った。朝食後は、廣幡神社宮司様のご家族のご協力の下、飛び出すメッセージカードを作成した。子供達はこの二日間で思い出残った事を作文し、飛び出す仕組みをあれこれ考



え、また絵を書いたり、色を塗ったり、表紙を作ったりと、皆が真剣な眼差しで楽しみながらも頑張っていたのが印象的であった。完成後には発表の場を設け、恥ずかしがりながらも思い出や飛び出す仕組みを説明していた。昼食後には閉会式を行い、会長より一人一人に修了証が手渡され終了となった。

お宮の子供会は本年度で三十七回目の開催となったが、冒頭にも記述した通り、本年は多数の子供達の参加があり大変賑やかな子供会となった。この事業は、地域の子供達に神社を知ってもらう・親しみを持ってもらう為の青年会の大切な教化事業であり、大勢の子供達に参加してもらえれば良い方法を考えながら、今後とも引き続き開催していきたい。(横山昌浩 記)

### 神社スカウト全国大会

八月六・九日の四日間、五年に一度の神社スカウト全国大会が伊勢市内の県営総合競技場周辺で開催され、当会は、開催奉告祭とみそぎ行事に助勢奉仕させて頂いた。開催奉告祭は、六日に総合競技場体育館にて斎行され、会長以下七名が奉仕した。

みそぎ行事は、八日の早朝に五十鈴川で行われ、会長以下十名が助勢奉仕した。

普段、ボーイスカウトは神社に於いて活動をしているが、この四日間は夫々の行事に真剣に取り組んでおり、良い経験を積むお手伝いが出来たことに感謝したい。(芦原工記 記)



### 第五回役員会

六日 会長以下一八名出席 彌都加伎神社

〈平成二九年一月〉  
二六日 第六回役員会 会長以下一五名出席 猿田彦神社

二六日 新年会 会長以下三一名参加 伊勢市内

〈二月〉  
四日 建国記念の日啓発活動 (神宮・南部ブロック) 九名参加 宇治橋前

七日 建国記念の日啓発活動 (中部ブロック) 会長以下八名参加 津駅前

八日 建国記念の日啓発活動 (北部ブロック) 会長以下九名参加 近鉄四日市駅前

二〇日 神青協 神武天皇二六〇

二一日 〇年記念事業 世界平和祈願祭 宮崎監事・宇治土公理事 参列 宮崎県内

〈三月〉  
二日 北部ブロック研修会 会長以下一一名参加 慈恩寺

一五日 中部ブロック研修会 会長以下一〇名参加 伊賀市内

二二日 神青協中央研修会 会長以下一一名参加 広島県内

二四日 第七回役員会 会長以下二二名出席 神社庁

二七日

### 神道青年東海地区協議会 総会並びに教化研修会

九月二十日・二十一日の日程で「神道青年東海地区協議会」総会並びに教化研修会が、熱田神宮会館・ホテル名古屋ガーデンパレスにおいて開催された。

研修会に先立ち、熱田神宮で正式参拝。その後小串和夫宮司よりお言葉をお頂戴し、研修会が開会された。

本年の研修会では、「愛知が生んだ三英傑に学ぶ 英雄豪傑の人生訓と神社」とし、「おかしき歴史教室」市橋章男氏に講師を務めて頂いた。

第一講義では、熱田神宮と藤原氏・源氏・足利氏との繋がりについて学んだ。藤原氏は熱田大宮司家であり、その子孫は足利家・源家に嫁いでおり、一般的にも有名な源頼朝や足利尊氏とも血縁がある事がわかつた。



た。そして、熱田神宮と藤原氏・源氏・足利氏が非常に強い繋がりがあつた事を知ることが出来た。

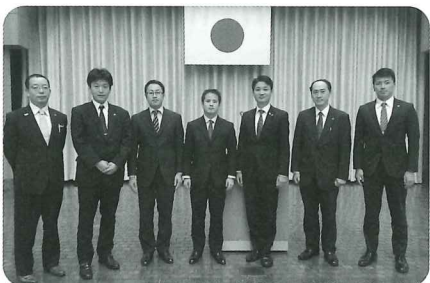


また第二講義では、徳川家康がなぜ豊臣氏を滅ぼさなければならなかつたのかを学んだ。家康・秀吉ともに経済政策として、通貨の安定を目指していた。豊臣家は金・銀の広大な鉱山を所有しており、家康はこの鉱山を手に入れたかった。戦に勝ち、この鉱山を手に入れた家康は通貨の交換比率を制定させた。これにより、貨幣経済が進展し物価が安定した。このように「経済を安定させる」という事が、徳川家康が豊臣氏を滅ぼす要因の大きな一つになっていたことを知った。

(増田秀磨 記)

### 神青協夏期セミナー

本年は神武天皇崩御より二千六百年を迎えた節目の年であり、神武創業に思いを致す事を目的に、八月二十九・三十日の両日に亘り、「人づくりは国づくり 愛と感動の青年神職」を主題に神社本庁で開催された。



第一講は、株式会社ヴィジョンリー・ジャパン代表取締役の鎌田洋氏より「デイズニーに学ぶ人づくり」と題して、自身が十五年に亘り東京デイズニーランドで清掃や従業員教育を行った経験を基にご講演頂いた。その中で「人を喜ばせる事は、ビジネスの原点である」という言葉が特に印象的であつた。

第二講は、人とホスピタリティ研究所所長の高野登氏より「おもてなしへの原点回帰」何を以って、

(村田卓謹 記)

何を為すのか」と題してご講演頂いた。ザ・リッツ・カールトンの日本支社長を務めた事もある高野氏は、自らが組織の一員であるという思いを持って自分から動かないと豊かな発想は生まれないとし、相手が何を求めているのかを考へる事が良い仕事を生み出すとの考えを述べた。

第三講は、小西美術工藝社代表取締役社長デービット・アトキンソン氏より「文化財との付き合い方」をテーマに「文化財との付き合い方」をテーマにご講演頂き、日本の人口減少と、それが神社に及ぼす影響について触れ、これからは国の観光戦略に神社仏閣も呼応していくようにとの考えを述べられた。



年神職が集い、地元熊本県神青や奉仕先神社の氏子の皆さんと共に応急措置や草刈り・清掃を中心とした活動した。

現場の原村菅原神社は本殿拝殿の大きな損壊は免れたものの、石鳥居や玉垣が崩壊して参道を塞ぎ、倒れたブロック塀が境内に散乱している状況であった。

作業は、猛暑の中であったが、全員が協力し、石鳥居や玉垣を重機と手作業で片づけ、参道を通ってお参りができるようになった。

また、ブロック片を運び出し、境内地の草刈り、草抜きを行い、被災地住民の心の拠り所である神社の復旧に一定の成果をあげることができた。

活動後、震源地である益城町の様子や、その益城町鎮座「木山神宮」の被害状況の視察を行った。

被災地の神社をとりまく状況は様々で、各地域の事情により復旧復興が進んでいない現状であることから、今後も継続的に支援活動を行い、被災神社の復興再建が一日でも早く実現し、地域の復興再生の象徴として住民の心の復興が叶うことを願う。

(芝幸介 記)

# 特集 災害復興支援活動

## 熊本地震 三重神青復興支援活動

**災害協定締結書**

大八洲國の災、日本有数の山に根ざれ地獄を我が身に浴する。神青東海地区復興会「北陸神道青年協議会」

我々は被災地を支援する神職としての責務を以て、信託を承る神宮の交流を求め、被災地を支援し、復興を期す。三つの協定を締結し、三つの協定を締結する。

平成二十八年七月四日

宮崎吉史  
小林慶直  
長友字隆

平成二十八年七月四日「北陸神道青年協議会」(・新潟県・福井県・石川県・富山県)と「神道青年東海地区協議会」(・三重県・愛知県・静岡県・岐阜県・長野県)が神道青年全国協議会 長友安隆会長立ち会いのもと災害協定を締結した。

災害発災時のマニュアルに関しては本庁・各県神社庁にて先の震災の復興支援の実践を活かしたものが出来つつあるが、最終的な災害復興支援活動は人と人との繋がりが肝要であると痛感した我々は、いかに交流をし続けるかといった点に重きをおき今回の協定を締結した。

今回の災害協定締結が両地区の末永き交流の一助に成ることを切に願う。

### 第四回 大馬神社復興支援活動



平成二十三年八月に台風十二号の影響による紀伊半島大水害が発生し、その水害被害に見舞われた大馬神社へ七月十九日に会長以下六名で復興支援活動を行った。



八月十七日、十九日、熊本県の被災神社(原村菅原神社・菊池市鎮座)の復興支援活動に参加させて頂いた。

当会では、東日本大震災の被災神社をはじめ、台風などの自然災害で被災された県内県外の神社の復興支援活動を予てより行っているなか、熊本でも震災以降未だ手つかずで復興が進んでいない神社が多数あり、復興の一助になればとの思いから支援活動を行う事となった。

三重県から十二名と、今回の趣旨に賛同した静岡、石川、福井、富山の各県神青から二十一名の青

# 第十五回 ブロック研修会

## ● 北部ブロック

- 一、日 時 三月二日(木)
- 一、場 所 慈恩寺(鈴鹿市)
- 一、参加人数 十一名
- 一、研修内容 お坊さんのお話に学ぶ研修会

## ● 神宮・南部ブロック

- 一、日 時 十一月二十八日(月)
- 一、場 所 伊勢河崎商人館
- 一、参加人数 二十三名
- 一、研修内容 伊勢河崎の歴史について

## ● 中部ブロック

- 一、日 時 三月十五日(水)
- 一、場 所 鮮魚店フジヤマ
- 一、参加人数 十名
- 一、研修内容 神饌について



北部ブロック研修会



中部ブロック研修会



神宮・南部ブロック研修会

## ● 北部ブロック

- 一、日 時 二月八日(水)
- 一、場 所 近鉄四日市駅
- 一、参加人数 九名
- 一、配布数 一、三〇〇袋

## ● 神宮・南部ブロック

- 一、日 時 二月四日(土)
- 一、場 所 宇治橋前
- 一、参加人数 九名
- 一、配布数 二、四〇〇袋

## ● 中部ブロック

- 一、日 時 二月七日(火)
- 一、場 所 近鉄津駅西口
- 一、参加人数 八名
- 一、配布数 三〇〇袋



北部ブロック



中部ブロック



神宮・南部ブロック

# 建国記念の日啓発活動

本年はクリサンセマムの種配布

## 神道青年東海地区協議会 「縁結会」

十月二十六日、名古屋市の熱田神宮にて東海地区では初となる独身神職交流会の「縁結会」が開かれた。未婚率が高まりつつある社会問題は斯会においても例外ではなく、これを課題をとして捉えた神道東海地区が主催した。男性十六名、女性十三名の計二十九名が参加、皆一様に緊張しながらも和やかな雰囲気のもと進められた。先ず熱田神宮正式参拝。その後、会館内の会場にて交流企画として、食品サンプル製作を行った。グループに分かれスイーツサンプルを作り、徐々に緊張がほぐれるような会話が見られた。



その後の懇親会では、ネームカードの交換に始まり、夫々に一対一での会話が持たれ、会食の席となった。この頃には緊張も取り除かれたのか、各テーブルで会話が弾み、盛会の裡に閉幕となった。(吉田実生 記)

## 神宮神青との合同研修会

十月二十八日(金)に神宮司庁において神宮神道青年会との合同研修会が行われた。神宮神道青年会からは中村会長以下四十一名が参加し、三重県神道青年会からは遠藤会長以下八名が参加した。今回の研修では、神宮主事首羽悟先生を講師に迎え、「次期式年遷宮に向けて」と題し講義を頂いた。

内容としてはまず伝統を継承するうえで現代の建築基準法と神宮の尊厳護持との両立の難しさを御殿の茅葺屋根を題材に解説頂いた。次に「常若」遷宮からの脱却について解説頂いた。「常若」という言葉が比較的新しい言葉である点や「黄泉返り」との混同にふれ解釈の変遷の説明を頂き、物珍しい言葉であったが同じ言葉の多用は飽きられてしまうため、新しいキャッチコピーを考えなければならぬ事を示して頂いた。最後に御神宝の調進について画像を用いて説明頂いた。回数を重ねるごとに材料の調達や技術の継承が難しくなっており、一部の材料は代用品を用いられていること

## 神宮大麻頒布促進活動

十二月六日(火)、鈴鹿市南玉垣町鎮座、彌都加伎神社(遠藤龍夫宮司)に於いて、神宮大麻頒布促進活動を行い、会長以下二十一名が参加した。



正式参拝後、先ず氏子地域の南玉垣町を中心に頒布活動を行い、七十九体頒布させて頂いた。次に住宅地を中心に八百戸ほど神宮大麻奉斎家庭用啓発チラシをポスティングし、神宮大麻奉斎の教化活動を行った。世代が変わったご家庭では断られる場合も多く、家庭に於いて神宮大麻奉斎(家庭祭祀)を継承していくことの難しさをつくづく実感した。今後、益々難局を迎えることが予想され、改めて今一度氏神信仰の普及を計る必要性と時代に適した教化方法の模索の緊急性を感じた。(荻原工記 記)



# 巫女のための神宮研修

二月六日・七日に伊勢の神宮にて全国の巫女が集い「巫女のための神宮研修」が行われ、助務として参加させて頂いた。全国より五十四名の巫女が参加し、三重県からは、椿大神社より二名、多度大社より一名の三名が参加した。

この研修は神道青年全国協議会が全国の巫女達に神宮についての見識を深めてもらうこと、将来家庭を持った際、母として自らの子供や地域の子供達に教育を施す一番身近な存在であり、神宮について理解を深めることが、各家庭の神宮大麻奉斎、家庭祭祀へと繋がるという趣旨で開催された。

一日目は巫女装束にて内宮参拝・御神楽奉納、次に神宮の由緒・舞女の奉仕・神宮大麻についての講義、また特別に内宮夜間参拝をさせて頂いた。

二日目は、早朝に内宮と外宮を御垣内参拝。その後、式年遷宮を学ぶためにせんぐう館・神宮徴古館を見学した。続いて「これからの時代各家庭において御札をお祀りしていただくためにはどの様にしていけばよいか」をテーマにグ

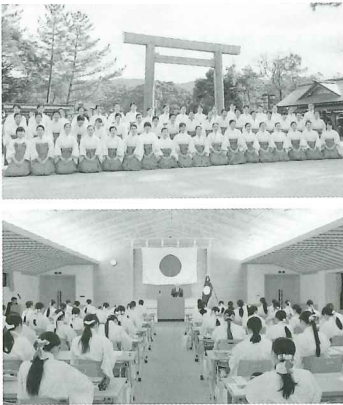
ループディスプレイが行われ、最後に修了証が授与された。

全国の巫女が集い、凛とした姿で研修に励む姿は素晴らしいものであった。研修の合間にも意見を交換しお互いに刺激し合いながら絆を深めていた。

研修に参加した椿大神社の巫女は「神域の風を肌で感じ五感が全て研ぎ澄まされるような感覚がしました。一生に一度の経験が出来たことを嬉しく思い、この日の感動を大切にしていきたいです。」

「普段立ち入ることが出来ない所での参拝に、いつも以上に身が引き締まり、清々しい気持ちになりました。後輩にも伝えていきたいです。」などの感想を述べていた。この将来にもつながる研修をこれからも定期的に開催して頂きたいと思う。

(坂田好美 記)



## 会員ニュース

### 結婚

平成二八年

七月 一日 北川 峻佑君

(新婦) 仁美さん

十月 一四日 秋本 剛宏君

(新婦) 伊久子さん

### 出生

平成二八年

四月 一五日 宮崎 吉史君

(長女) 由衣さん

五月 三〇日 遠藤 玲君

(長男) 玲音君

六月 一八日 工藤 正弘君

(次女) 千鶴さん

十二月 一七日 馬場 正徳君

(長男) 未徳君

平成二九年

一月 一七日 千秋 季嗣君

(次男) 季誉君

二月 二日 滝沢正太郎君

(長男) 幸太郎君

三月 一九日 神田 直久君

(長男) 佳明君

## 卒業者芳名

(敬称略)

冷泉 光一 神館神社宮司

新山 英洋 鴨神社禰宜

遠藤 玲 八幡神社宮司

濱中 孝成 中村神社宮司

竹中 由佳 神前神社禰宜

佐久真みゆき 美波多神社宮司

池田ゆかり 花垣神社禰宜

宮田 茂光 神明神社禰宜

宮田 幸尋 猪田神社宮司

遠藤 嘉章 彌都加伎神社禰宜

駒田 親史 小野江神社禰宜

川島 康子 上野神社禰宜

荒井 之也 敢国神社禰宜

岩谷八千代 立坂神社禰宜

石垣 則将 八重垣神社宮司

森口 真樹 猿田彦神社禰宜

橋本 剛礼 都美恵神社禰宜

芝本 行亮 神宮宮掌

中西 直樹 神宮宮掌

林 陽典 神宮宮掌

井関 一隆 神宮宮掌

菱川 由貴 神宮宮掌

西村 昌登 神宮宮掌

江沢 泰一 神宮宮掌

鏡谷 嘉樹 神宮宮掌

# 平成二十八年度 神青協中央研修会

三月二十三日・二十四日の両日、ANAクラウンプラザホテル広島に於いて「平和の希求」を進むべき未来への道筋」を主題として神道青年全国協議会中央研修会が開催され、三百七十七名が参加した。

本研修会では、初日にケント・ギルバート氏が「真の平和を実現するために」について、引き続き戸高一成氏が「戦後七十年と平和」と題して講演。翌日には志賀賢治氏が「記憶の継承」の演題で講演を行った。



第一講でケント・ギルバート氏はまず、世界の長い歴史の中で多くの国が栄えては滅ぶ運命を辿っているのに対し、唯一日本だけが建国以来現在まで続いていることの尊さを説かれた。日本は国際社会の中で果たすべき役割を考え、それを実行する勇気を持つべきであると熱弁された。憲法改正に取り組み、日本が自立して行動できるような環境を早急

に整備すべきと強調された。

国民が愛国心を持ち、日本が真の意味で自立できるよう一人一人が目醒ます時期に来ていると主張され、講演を締めくくられた。

第二講は呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）の館長戸高一成氏に講演いただいた。戸高氏は、戦後七十年になるため戦争を知らない世代が増加していることを危惧された。また物事は一方向から善悪を判断せず、多角的なものを見方でメリットとデメリットを両方把握することが重要と強調された。



第三講は広島平和記念資料館館長の志賀賢治氏に講演いただいた。近年、広島平和記念館を訪れる外国人が多いが、原爆が投下され



た地上の悲惨な光景や残された遺品の展示を見て、言葉を失う人々が多いという。我々日本人を含めて原爆投下の惨事を遠い過去の出来事として他人事のように捉える人が多いのだという。この記念館を訪れ数々の遺品と触れ合う事で、戦争を身近なことに認識すること

が真の平和を実現するための第一歩となると語られた。

今回の研修を通じ、平和を希求するには国民が過去を正しく学び、現在日本が直面している問題を解決すべく努力すべきだと感じた。神職である我々に求められている役割とは何かを改めて考える機会をいただき、身の引き締まる思いである。

(福田太志 記)

## 編集後記

三重県神道青年会の平成二十八年度の活動を記した『榊葉』第四十三号を無事発行することが出来ました。恒例の内容に加え、今回は災害復興活動についての特集が掲載されていますので御覧頂ければ幸いです。

それにしても月日の経つのは速いもので、サミットで先進国の首脳達が揃って神宮を参拝したのも随分遠い昔のことです。この一年、神社関係の発行物で、米大統領の記帳の訳文を目にする都度思い出しましたが、そのような記録がなければ過去の出来事というのは簡単に記憶の彼方に薄れていってしまうのでしょうか。

ところで、記録といえば三重県神青ではこの『榊葉』がそれに当たる訳ですが、過去の積み重ねが未来を紡いでいくのであれば、この『榊葉』編集をほぼ一人で切盛りする事務局長には頭が上がりません。(垣内 聡)

## 会報「榊 葉」

第 43 号

平成 29 年 3 月 31 日

発行者 遠藤 嘉章

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県神社庁内

三重県神道青年会